

1. 北海道（地域別調査機関：株式会社北海道二十一世紀総合研究所）

（－：回答が存在しない、*：主だった回答等が存在しない）

分野	景気の現状判断	業種・職種	判断の理由	追加説明及び具体的状況の説明
家計 動向 関連 (北海道)	◎	－	－	－
	○	一般小売店〔土産〕（経営者）	販売量の動き	・売上は前年比で97.7%、前々年比で22%である。前々年を基準にすると、前年5月は前年比3.3%であったものが、8月は22%まで上昇しており、その分入出が増えていると考えることができる。
	○	スーパー（企画担当）	お客様の様子	・ワクチン接種率の上昇や自粛疲れなどにより、前年の夏よりも客が活動的になっている。
	○	スーパー（役員）	お客様の様子	・お盆期間を中心に帰省客、観光客が前年より多くみられ、お盆商戦が盛り上がった。
	○	コンビニ（エリア担当）	単価の動き	・8月は気温が高く、晴れの日が多いなど、天候が良かったことから、景気はやや良くなっている。
	○	旅行代理店（従業員）	来客数の動き	・コロナ禍のなかではあるが、当地と関西を結ぶ新規LCC航空路線が7月に就航したことで、航空路線の供給座席数が前年と比べて大幅に増加している。7月の航空機利用者数は前年比180%、前々年比約50%となっており、人の動きが活発になっている。個人観光客や帰省客などの回復が大きな要因となっている。
	○	観光名所（従業員）	来客数の動き	・新型コロナウイルスが全国的な拡大傾向にあるものの、想定以上に観光や余暇を楽しむ国内需要があり、当施設もコンスタントに利用されている。
	○	美容室（経営者）	来客数の動き	・来客数、売上のいずれも増えている。前年の夏と比べて客の動きは活性化している。緊急事態宣言が発出されても、一定の生活パターンで過ごす動きが定着しつつある。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・来街者数の減少傾向が緩和しつつあったが、新型コロナウイルスの感染者数が大幅に増え、緊急事態宣言が発出される状況になったことで、ここ数日の来街者数は大きく減少している。このままでは商店街も廃業や閉店が増えることが懸念される。
	□	商店街（代表者）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者数が増加していることで、平日の来街客が前月よりも減少している。特に月曜から木曜にかけての来街者はまばらであり、買物袋やエコバッグなどを携行している客も少ない。また、他都府県や他都市からの車両が散見されるものの、宿泊、飲食、土産などの関連業種において、売上がアップしている様子はみられない。
	□	百貨店（販売促進担当）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言へ移行したため、持ち直しの兆しがみえた来客数や買上客数などの指標が軒並み減少している。緊急事態宣言解除後もこの傾向が続くことが見込まれるため、景気回復はまだ先のこととなる。
	□	百貨店（営業販売担当）	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、お盆過ぎから来客数が減少している。ワクチン接種が終わった年配客の来店が少しずつ戻りつつあったが、再びプレーキの掛かった状態となった。
	□	スーパー（店長）	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の適用、緊急事態宣言の発出と続いていることから、外出するための衣料品、学校行事や社会行事のための買物について需要が上向いてこない。食品の売上は好調だが、これは従来の外食需要がスーパーに流れてきたものであり、社会全体でみればトレンドが上向いているわけではない。
	□	スーパー（企画担当）	来客数の動き	・今年のお盆商戦は、前年と同様に帰省自粛や行動自粛の影響がみられたことから、都市部の店舗は好調だったものの、例年帰省客でにぎわう地方の店舗は苦戦気味であった。また、売上のピークが特定の日に集中するのではなく、期間を通して平準化する傾向もみられた。
□	コンビニ（エリア担当）	来客数の動き	・8月27日に緊急事態宣言が発出されることになったため、客足がますます悪くなるとみられる。	
□	家電量販店（店員）	販売量の動き	・8月は残暑が厳しかったせいか、夏物家電がよく売れた。	

□	乗用車販売店 (従業員)	単価の動き	・2～3か月前と比べて、売行きは余り変わらないが、8月はお盆休みがあり、稼働日が少ないため、販売台数自体はやや減少している。ただ、販売目標は達成できているため、会社としては問題なく推移している。
□	自動車備品販売店 (店長)	お客様の様子	・来客数の動きや買物の様子などをみても、特に大きな変化はみられない。
□	旅行代理店(従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの終息がみえないため、旅行する機運が上向いてこない。まずはワクチン接種率の向上が鍵となる。
□	タクシー運転手	販売量の動き	・新型コロナウイルス対策に右往左往している。経済活動という点では客がある程度コロナ慣れしてきている面はあるが、業績は低めで安定した推移となっている。
□	通信会社(企画担当)	来客数の動き	・緊急事態宣言下であっても、都市部、地方を問わず大型商業施設や大手ドラッグストア、スーパーへの客足は変わっていない。それらの施設での出張イベントにおいても1か月前と同程度の集客を維持できている。
▲	商店街(代表者)	お客様の様子	・客の様子をみると、景気が少し悪いと言っている客が多い。
▲	商店街(代表者)	販売量の動き	・天候が不安定なことから、果実の作柄が悪くなっている。
▲	一般小売店[土産] (経営者)	来客数の動き	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴う緊急事態宣言の影響を受けている。帰省や外出、旅行の自粛がみられ、夏休みやお盆であっても最低限の行動しか取らない人が多くなっている。客単価の高い年配客、団体旅行客はほぼゼロである。来客数が全体的に減っていることで、売上にも響いている。
▲	スーパー(店長)	それ以外	・新型コロナウイルスの第5波の影響により、盆の入りから客足が落ち始めた。さらに、まん延防止等重点措置から緊急事態宣言に移行したことで広域商圏の当店の客足はますます落ち込んでいる。
▲	スーパー(従業員)	来客数の動き	・前年は新型コロナウイルスの感染拡大により、来客数が大幅に減少したが、今年は前年を上回る落ち込みとなっている。また、前年は客単価の上昇によって売上が増加したが、今年は客単価も前年を下回っている。
▲	コンビニ(エリア担当)	それ以外	・確実に悪い方向に転じている。緊急事態宣言が発出されたことなどから客が出歩いておらず、観光需要も落ち込んでおり、消費が停滞している。営業時間の短縮や飲食店の休業といった動きも出ており、プラスとなるような要素がみられない。さらに、漁業や農業も良い状況ではないため、客の行動や消費が冷え込んでいることを実感している。
▲	コンビニ(エリア担当)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置が要請され、その後、緊急事態宣言の発出へと移行しており、酒類の販売抑制への協力依頼が続いている。今年の夏は気温が高いことから、売上が若干回復傾向にあったが、8月に入り急落している。
▲	乗用車販売店 (経営者)	販売量の動き	・新型車発表の効果もあり、新車の受注量は上向き傾向にあるが、半導体不足の影響が相変わらず続いており、そこに追い打ちを掛けるように新型コロナウイルスの感染が拡大したことで部品供給も停滞しつつある。生産台数が減産となっていることで、売上に結び付かない状況となっている。
▲	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・新型コロナウイルスの新規感染者が過去最高を記録したことなどから、客の動きが悪く、受注件数が前年よりも減っている。新車の生産にも遅れが生じていることから、売上に大きな影響が生じている。
▲	その他専門店 [医薬品](経営者)	来客数の動き	・国民の疲弊が顕著になってきている。当店の客の大部分はワクチン接種を終えているが、様々な制約によってストレスが限界にきている。購買意欲も落ち込んできている。

▲	その他専門店 [ガソリンスタンド] (経営者)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置、緊急事態宣言の影響で販売量が低調に推移している。
▲	高級レストラン (スタッフ)	販売量の動き	・売上は前々年の3割前後と悪い。東京オリンピック開催による影響はほとんどみられなかった。まん延防止等重点措置の適用に伴って自粛しながら営業を続けており、ランチを中心に悪くない状況にあったが、8月下旬から緊急事態宣言が発出されたことで休業を決めたため、大きく落ち込むことが見込まれる。また、売上が落ち込んでいたことから、ディナーのスタッフを削っていたが、振り客が重なると料理の提供時間が遅れてしまい、その結果、客の不満感が募り、ますます客が減るという悪循環がみられた。公的施設の食堂を経営する友人から聞いた話では、職員の昼食について外食や食堂の利用を控える指示が出ており、売上が減少しているとのことであった。
▲	高級レストラン (スタッフ)	お客様の様子	・新型コロナウイルスの影響に加えて、主要産業の事業所撤退に伴って急速に人口が減少しており、地域全体に活気がなくなっている。
▲	旅行代理店 (従業員)	来客数の動き	・3か月前も緊急事態宣言の期間中であったが、8月は今までにない感染拡大のせいか、来客数は1日1組程度にとどまっている。予約の取消しや払戻しも多くなっており、新規予約も減っている。
▲	旅行代理店 (従業員)	お客様の様子	・緊急事態宣言の影響で需要が見込めないため、景気はやや悪くなっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置の対象区域となったことで、特に夜間の利用客が減少している。日中についても、買物などの外出での利用が少なくなっており、景気はやや悪くなっている。
▲	タクシー運転手	来客数の動き	・コロナ禍のなか、北海道の新規感染者数が増加している状況にあることから、人の動きも飲食店の動きもみられない。当業界にとっては非常に厳しい状況に追い込まれている。
▲	美容室 (経営者)	来客数の動き	・ここ3か月の状況をみると、客単価は変わらないものの、来客数が少しずつ減少している。
▲	美容室 (経営者)	それ以外	・再び緊急事態宣言が発出されたこともあり、景気はやや悪くなっている。
▲	その他サービスの動向を把握できる者 [フェリー] (従業員)	来客数の動き	・首都圏などで緊急事態宣言が発出されたことから、観光客が減少しており、それに伴って当社の輸送量も落ち込んでいる。
▲	住宅販売会社 (経営者)	お客様の様子	・想像していたとおり、東京オリンピック終了後の新型コロナウイルス感染者が爆発的に増えていることから、景気のみならず非常に悪くなっている。
×	商店街 (代表者)	来客数の動き	・まん延防止等重点措置から緊急事態宣言に変わったことで、中心部の人出がますます少なくなった。夏のセールも不調に終わり、売れ残りが怖く仕入れができなくなっている。緊急事態宣言の解除が見通せる状況ではないため、商売の展望も描けない。1年半にも及ぶ自粛によって、そろそろ商売の終えんを迎える店舗が増えてくるのではないかと懸念している。ワクチン接種がある程度進んだ後は、重症者が少ないのであれば行動制限を解除するなどして、経済を回すようにしないと店舗は再起不能になる。その勇気を以って、感染対策に臨んでほしい。
×	一般小売店 [酒] (経営者)	販売量の動き	・まん延防止等重点措置の対象地域に指定されたことから、主力商材である酒類の売り先が全くと言っていいくらいなくなっている。売上は壊滅的な状況となっている。
×	百貨店 (売場主任)	販売量の動き	・東京オリンピック終了後、新型コロナウイルスの新規感染者数の増加と反比例する形で売上が減少している。自粛疲れによって、若者を中心に人の動きが活発になっている傾向もみられるが、年配客についてはワクチンを接種した後も動きが元に戻っていない。

	×	乗用車販売店 (従業員)	販売量の動き	・例年であれば、お盆休み後から新車販売が動き始めるが、今年はそうした動きが余りみられない。
	×	高級レストラン (経営者)	それ以外	・観光シーズンに入った当初は観光客の入込が増えていたため、景気が良くなりかけていたが、変異株を中心に新型コロナウイルスの新規感染者数が増えてきたことから、客の動きが悪くなっている。また、北海道に緊急事態宣言が発出されることが決まったため、これからはどんどん景気が悪くなっていく。
	×	高級レストラン (スタッフ)	来客数の動き	・緊急事態宣言の発出に伴って、事業所の休業、店舗の営業時間短縮などの動きがみられるようになっていく。観光客の動きも完全に止まっており、厳しさが一層増している。市内客の動きも鈍く、来客数の減少により、売上は大きく減少している。
	×	スナック (経営者)	来客数の動き	・途中で営業を休止したため、何とも言いようがないが、8月もスタートから余り良くはなかった。
	×	観光型ホテル (経営者)	来客数の動き	・今年はGo To Travelキャンペーンなどの施策もないため、新型コロナウイルスの影響を大きく受けた前年と比べても宿泊予約が大きく減少している。まん延防止等重点措置や緊急事態宣言が相次いでいることもあり、夏の観光シーズンにもかかわらず壊滅的な状況となっている。
	×	観光型ホテル (スタッフ)	来客数の動き	・Webを経由した個人宿泊商品の販売に注力しているが、集客状況は極めて悪い。
	×	旅行代理店 (従業員)	それ以外	・東京オリンピックを終え、全国的に新型コロナウイルスの感染が広がっている状況にあるため、悪くなっている以外にない。北海道に緊急事態宣言が発出されたこともマイナスである。
	×	タクシー運転手	来客数の動き	・まん延防止等重点措置、その後の緊急事態宣言で人の移動を抑制しているため、タクシーの利用は6～7月と比べて減っている。特にアルコールの提供禁止、飲食店の営業時間の短縮などが要請されているため、夜のタクシー利用が極端に減少している。売上は前年から20%の減少となっており、コロナ禍前の前々年からは60%の減少と大幅な減収となっている。
	×	タクシー運転手	販売量の動き	・全国各地でまん延防止等重点措置、緊急事態宣言の対象地域が広がり続けていることから、夜間の人出は一層少なくなっている。観光客の入客も7月末からお盆まででピークが過ぎるなど、例年と比べて期間が短かった。地域内の経済状況はますます厳しくなっており、住民の購買意欲にも影響を及ぼしている。
	×	タクシー運転手	お客様の様子	・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って8月27日に緊急事態宣言が発出され、外出自粛が要請されているほか、夜の街関連の店舗では時短営業が要請されていることから、客の外出がますます減っている。それに伴ってタクシーの稼働も落ちている。
企業 動向 関連 (北海道)	◎	—	—	—
	○	輸送業 (支店長)	取引先の様子	・実感はないが、ここに来て当社の取引先の多くで2021年度の売上見込み、利益見込みを上方修正しており、全般的には景気がやや改善している兆しがみられる。
	□	食料品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・前年と比べれば景気は多少良いが、コロナ禍前との比較では1割ほど受注量が減っている。
	□	金属製品製造業 (従業員)	受注量や販売量の動き	・8月の受注量は前年並みかややプラスになっているが、前年はコロナ禍の影響で落ち込んでいたため、特に景気が良くなっている状況ではない。
	□	建設業 (従業員)	取引先の様子	・前年と比べると、業務量が50%程度に減少している。
	□	輸送業 (営業担当)	受注量や販売量の動き	・荷動きについてみると、一般雑貨のトレーラーは少し動きが出てきている。生乳は本州サイドでの生産が順調なことに加えて、消費が伸び悩んでいることもあり、北海道からの送り込みが相当減少している。
	□	金融業 (従業員)	取引先の様子	・ワクチン接種が進展しているにもかかわらず、道内の新型コロナウイルス感染者数は高止まりしており、まん延防止等重点措置によって経済活動も抑制されている。このため、道内景気は緊急事態宣言が発出されていた3か月前と変わらない状況にある。

		司法書士	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・自粛要請が出ているにもかかわらず、お盆期間中には県外ナンバーの車が大量に走り回っており、どこの観光地もそれなりに人がいた。観光地に人が来なければ経済が回らないが、人が来れば新規感染者数が増えることになる。今のところ、当地の経済に大きな影響は出ていないが、大都市を中心に緊急事態宣言の発出が予定されており、地方にも影響が広がっていくことが懸念される。今後の景気は少しずつ悪くなるとみられる。
		その他サービス業〔建設機械レンタル〕（総務担当）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・当社の売上は引き続き前年から5%程度増加して推移している一方で、新型コロナウイルスの感染拡大に歯止めが掛からないことから、業種によっては厳しさが続いている。全体としては横ばい傾向が続いている。
		その他サービス業〔建設機械リース〕（支店長）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・客先における設備投資の状況は変わっていない。
		その他非製造業〔鋼材卸売〕（従業員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・スポット的な受注案件は増えているが、最近はベース商材の動きが落ち着いており、市場全体では静かな動きとなっている。
		建設業（役員）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴って3度目の緊急事態宣言が発出された。直接的な影響は出ていないものの、新規建築案件の引き合いは依然として少ないままである。こうしたなか、受注競争による利幅縮小、建設資材価格や人件費の単価上昇が顕在化してきた。年度計画を達成できるだけの工事をまだ確保できていないこともあり、景気はやや悪い。
		通信業（営業担当）	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・足元の企業や取引先では新型コロナウイルス感染拡大の影響を想定以上に受けている。ここ数日、経済活動の停滞と業績への下押しの圧力を特に感じている。
		司法書士	取引先の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大に伴ってまん延防止等重点措置や緊急事態宣言の対象地域が拡大していることで、自粛の動きがみられる。人流抑制などの要請を受けて営業活動を自粛する企業も多く、それによって経済が停滞するという悪循環が続いている。不動産取引においても営業自粛に伴って成約が減少している。
		家具製造業（経営者）	受注量や販売量の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルスの感染拡大が大きく影響している。
雇用 関連 (北海道)		—	—	—
		人材派遣会社（社員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・企業の採用意欲が高まっており、コロナ禍で採用に慎重だった姿勢が変わりつつある。スキルについても、即戦力人材へのニーズは相変わらず高いものの、未経験者でも人物像が良好であれば採用の対象となるなど、コロナ禍前の状況に戻りつつある。
		求人情報誌製作会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・北海道全域に緊急事態宣言が発出される可能性が高くなってから、全体的に求人プレーキが掛かっている。ただ、医療関連業界や清掃業界など、新型コロナウイルス対応を余儀なくされている業界の求人が多くみられるほか、巣籠り生活が続いていることから生活関連サービスの求人も堅調である。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・テイクアウトや巣籠り需要が生じている企業や店舗の求人動向は大きく変動することなく、堅調に推移している。一方、それ以外の業種の求人動向については相変わらず悪いままである。
		求人情報誌製作会社（編集者）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前ほどではないが、今年のお盆前後には道外からの観光客が多数みられ、徐々に活況を呈していた。ただ、8月末からの緊急事態宣言の発出を受け、こうした動きも一気に落ち込むことが懸念される。
		職業安定所（職員）	周辺企業の様子	<ul style="list-style-type: none"> ・現状について、ここしばらくは余り良くない状況が続いている。観光産業や宿泊業で景気が良くなったという話はなく、飲食店も傾向は変わっていない。
		職業安定所（職員）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・当地における7月の有効求人倍率は0.85倍であり、3か月前との比較では0.03ポイント上回っている。

□	職業安定所（職員）	それ以外	<ul style="list-style-type: none"> ・7月の新規求人数が前年を上回り、有効求人倍率は1.43倍となっているが、今後、当地の主要企業の事業所撤退に伴って地域経済に大きな影響が出てくることが懸念される。
□	学校〔大学〕 （就職担当）	採用者数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・2022年新卒者の就職決定率はここ数年間で最悪の厳しい状況になるとみていたが、夏休みまでにほとんどの学生が内定を得ている実態が分かった。業種間での採用意欲には大きな差がみられ、観光や飲食・サービス業などは相変わらず厳しい状況であるが、コロナ禍2年目を迎えて将来を見据えた改善や工夫もみられるようになっている。全体としては景気が若干安定してきている。
▲	求人情報誌製作 会社（編集者）	求人数の動き	<ul style="list-style-type: none"> ・飲食関連においては、まん延防止等重点措置や緊急事態宣言によって少なからず影響を受けている。関連する業界の求人件数が減少傾向にある。
×	—	—	—